

IIAS NEWSLETTER

2002年4月発行

国際高等研究所

関西文化学術研究都市



国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために何を研究すべきか」を研究することを基本理念として、新たな学問の創造・進展を目指す「課題探索型」の基礎研究を行っています。

すなわち、人類の未来と幸福にとって不可欠な課題を発掘し、その問題解決に向かっての研究戦略を展開する中で、学術研究における新しい研究の萌芽、或いは新たな学問の立ち上げにより広く世界文化の発展に寄与することを目的としています。

目次

副所長抱負 就任一年を顧みて：岡田 益吉

2002年度事業計画

掲示板：今後の公開事業予定

副所長抱負



就任一年を顧みて

岡田 益吉

国際高等研究所副所長

専門：発生生物学

学問を専門家の独占から解放する可能性を探りたい

副所長に就任いたしましたから1年がたちました。私は東京の下町で育ち、現役時代のかなりの期間を筑波研究学園都市におりましたので、始めは少々戸惑いもありました。しかし、金森所長、北川、中川お二人の副所長、それに事務局の方々のお陰で少しは、あたりの様子が見えて来たように感じます。

私が発生生物学分野の研究者になろうと決心したのは、ほぼ半世紀前のことです。この間に、発生学と遺伝学の再婚の場に立ち会えたことは、特に印象に残っています。発生学者と遺伝学者が互いに相手の理論を見当はずれと攻撃し合っていた時代が終わり、協力して新しい学問を作ったのは素晴らしいことでした。この体験を高等研での研究活動に重ね合わせたときに、果たして柳の下に2匹目のドジョウがいるかどうか分かりません。しかし一般的には、論理学上のつながりがある分野（発生学と遺伝学は共に形態の生理学に分類されます）の間で行う横断的な議論は新しい研究分野の創設の可能性を秘めています。これは北川副所長も述べておられ、特に新しいことではありませんが、高等研の特長の一つであると思います。

もうひとつ、学問を専門家の独占から解放する可能性を探りたいと思っています。一寸過激に聞こえるかもしれません、高等研のこれまでの活動の中にすでに種は播かれています。たとえば「公開講演

会」「親子サイエンススクール」などです。しかし、これらは啓蒙活動であって学問そのものではないと見られてきました。啓蒙活動は大切なことで、高等研の活動として続けていくべきだと思いますが、私は、これを一步進めることができかどうか考えて見たいのです。いわゆる専門家でない人たちが、自分達も「何を研究するか」を考えることに加わったと実感し得るような何かが出来ないだろうか、ということなのです。まだ具体的な計画を持っているわけではありませんし、私のこの考えが浅はかな夢であるのかもしれません、我々の生活と密接に関係する、誰でも関心の持てるような学問分野では可能なのではないかと夢想しております。

人間は生殖活動を終わった後も長く生き続ける唯一の動物です。人生200年時代もささやかれる現在、子孫を残す営みを終え、生物としては生きる意味がなくなった後の人生の生き甲斐は、人間のもう一つの特徴である知的活動であると発信したいものと思います。

まだ模索しているだけなのに生意気なことを言ってしまいました。私の育った下町では「五月の鯉の吹き流しみてえに腹ん中は空っぽだあ」というのが美德でした。三つ子の魂は変えようがありませんので、自分をさらけ出すのを恥じずに、皆様とやっていきたいと思っております。

2002年度事業計画

3月26日(火)午後4時から研究所内において、「第47回理事会」「第41回評議員会」が開催され、(1)2002年度事業計画、(2)2002年度収支予算、(3)資産運用、(4)理事・監事・評議員の改選、(5)役員人事の5議案が審議され、承認された。「2002年度事業計画」の概要は下記のとおりである。

総括

2002年度の具体的な事業としては、研究事業、学術出版事業、専門的人材養成事業と「学者村」の運営を四つの柱とし、公開講演会等の一般公開事業を通じて集積した知の社会への伝播を促進する。

1. 研究事業の全体像

人類の未来と幸福に貢献することを標榜する本研究所の研究事業は、学術のあるいは現代社会が直面する社会的諸課題について総合的な研究を行うことを基本とする。選択した総合課題についてその中心テーマを構成する諸分野の相互関連を十分に考慮しながら、未来社会に必要な新しい総合概念とシステムの創造に貢献することを目指す。

2. 情報出版事業の充実・研究成果の公表
3. 専門的人材育成事業 「スペシャリスト・コース」 の新規展開
4. 「学者村」の活性化 研究者の招へい、若手研究者の育成
5. 研究環境の整備及び情報発信機能の充実
6. 研究資金の充実

研究事業の積極的な推進

1. 課題研究(A)

課題研究(A)は、中・長期を展望した研究テーマについて、概ね3年程度の研究期間を設けて計画的に推進する課題探索型の基礎研究である。

2002年度における課題研究(A)は、2001年度における課題研究(A)の継続研究である3件の研究事業と、2001年度の課題研究(B)の成果を踏まえ、課題研究(A)に移行する1件の研究事

業の計4件を推進する。

(1)「種属維持と個体維持のあつれきと提携」

(2000年度開始、2002年度終了予定)

研究代表者：岡田 益吉
国際高等研究所副所長



種属維持と個体維持という生物にとってはどちらも欠くことの出来ない営みの全体像を、生殖細胞と体細胞の関わりに重点を置き、進化をも考慮に入れて、ダイナミックに浮き彫りにすることを目的とする。

2002年度は、これまで討議してきた流動的かつ多岐にわたる問題の現時点での断面を明確に示し、今後の研究方向を指向するためには、最も有効な具体策は何かを探るための議論を行ふ。

(2)「『一つの世界』の成立とその条件 鎌国時代の日本とヨーロッパ」

(2001年度開始、2003年度終了予定)

研究代表者：中川 久定
国際高等研究所副所長
専門：フランス文学



日本、ヨーロッパのそれぞれが抱いた幻想的イメージの交錯の実態、こうした幻想を生み出すにいたった両者の認知的枠組みのあり方、双方の異なる枠組みが衝突した際に起こる葛藤の実状、この葛藤を通して現れてくる世界は一つであるという両者共通の認識などを究明する。また、その当時日本とほぼ同じ状況下にあった中国、朝鮮と対ヨーロッパの関係についても、同じ視点から考察を加え、問題をより明確にすることを試みる。

(3)「多様性の起源と維持のメカニズム
多様性の新しい理解を目指して」
(2001年度開始、2003年度終了予定)



研究代表者：吉田 善章
国際高等研究所特別委員
東京大学大学院新領域創成科学
研究科教授
専門：プラズマ物理学、数理科学

複雑系の進化を「多様性」が生み出され維持されるダイナミックなプロセスとして捉え、多様性・複雑性を法則として捉える科学の新領域を開拓しようとする目標とする。

2002年度は、「異質を包摂するシステム」としての「多様系」のダイナミックスに焦点を当て、上記の研究テーマについて研究を行う。

(4)「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」

(2002年度新規、2004年度終了予定)



研究代表者：波多野謙余夫
国際高等研究所特別委員
放送大学教授
専門：認知科学・心理学

高次情報処理の代表である思考機能がいかにして脳内で実現されているか、それはヒトの心の働きにどのように反映されているかを解明するため、認知科学、心理学、生理学、言語学、哲学など、文系・理系の枠を超えた、第一線の研究者による一連の発表と議論を通して、研究の総覧と今後の課題の同定を行なうことを目指す。

2002年度は、「心の理論」、すなわち自他の行動を心的状態に起因させることを含む思考の神経学的基盤を取り上げる。

2. 課題研究（B）

課題研究（B）は、中・長期を展望した課題について、研究項目、研究方法、研究組織等の検討を通して課題研究（A）への移行を図る研究、及び特定の研究テーマについて行う短期的な研究または学術フォーラムの開催を計画する。

2002年度の課題研究（B）は、2001年度に実施した当該事業の中から諸般の状況に鑑み、研究期間を延長する継続課題3件と、新規採用課題4件の事業化を図る。

(1)「公共部門における人材の配分と育成
官僚制の日・独・米比較」(継続)



研究代表者：猪木 武徳
国際高等研究所企画委員
大阪大学大学院経済学研究科教授
専門：経済思想・労働経済学

我が国における公共部門の人事システムに関する労働経済学の視点からの研究を踏まえ、公共部門における人材の配分と育成に関する課題について、比較制度分析を用いてドイツ及び米国の研究者の協力を得て取り組む。

(2)「災害観の文明論的考察」(継続)



研究代表者：小堀 鐸二
国際高等研究所学術参与・
特別委員
京都大学名誉教授
専門：建築構造学

将来の災害リスクに対する寛容さの意味、効率性の追求と災害に強い社会の実現に向けた新たなパラダイムの構築の可能性、こうした根源的問題について文明論の立場から議論し、災害に強い安心・安全な社会システムの構築に向けて新たに取り組むべき研究課題の抽出を目的とする。

(3)「東西の恋愛文化」(継続)



研究代表者：青木 生子
国際高等研究所企画委員
日本女子大学名誉教授
専門：上代文学

日本文学全体の中において「恋愛」に関わる問題の全般的把握を試みることをまず主眼に置き、さらに他国との比較文学的方法も視野に入れた展開を図るなど、体系的かつ本格的に研究することを目指す。

(4)「国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成」(新規)



研究代表者：田中 成明
国際高等研究所企画委員
京都大学大学院法学研究科教授
専門：法理学

国際化が進む中、法的・政治的な制度・手続の在り方を検討する場合、各国における特殊性と共通性のバランスのとれた複眼的な視座から制度・手続設計を行うことが必要である。社会倫理のからむ政策形成をめぐる公共的な議論・決定の制度的・手続的な在り方について、日本社会に適したモデルを探る。

(5)「量子情報の数理」(新規)



研究代表者：大矢 雅則
国際高等研究所特別委員
東京理科大学理工学部情報科学科
教授
専門：数理科学

過年度実施した「量子情報論の展開」における数学的知見を踏まえ、現実の物理過程を念頭に置いて、量子情報・量子通信の基礎数理を見出すことを目的とする。具体的には、究極的（安全）な通信の実現、複雑系の統一的理解、量子確率の力ノニカル表現と非力ノニカル表現の検討を目標とする。

(6)「スキルの科学に関する学際的検討」
(新規)



研究代表者：岩田 一明
国際高等研究所特別委員
大阪大学・神戸大学名誉教授
専門：機械工学・精密工学・
経営工学

スキルの科学に関する学術的体系化の基盤構成の提示を目指し、スキルに関する語意・概念の擦り合わせ、スキルの構造、スキルの獲得過程、応用領域とスキルのメカニズム、個別学術領域とスキルの関係などに焦点を当て、問題点と研究課題の抽出及び検討を行う。

(7)「センサー論」(新規)



研究代表者：鷺田 清一
国際高等研究所特別委員
大阪大学大学院文学研究科教授
専門：倫理学

哲学の感覚論、心理学のアフォーダンス論、動物行動学、人類学の身体技法論から芸能における〈勘〉、医療やケアにおける気づき、生物学における認知論、探知機や家電、更にはコンピュータや写真機のセンサー論まで、文／理をまたぐ新しい微視的な感覚論を探求することを目指す。

3. 特別研究

「特別研究」とは、事業主体との間で委託研究契約または共同研究契約を締結して推進する事業等で、特に大型の予算を組み、数年に亘る研究期間を予定する研究など、特別の推進体制や研究の枠組みを設けて推進する研究事業である。

2002年度は、1998年度から開始した下記2件の研究課題について継続事業として推進する他、新たに2001年度途中から開始された新規事業の3件を推進する。

(1)「情報市場における近未来の法モデル」

研究代表者：北川 善太郎
国際高等研究所副所長
専門：民法学

日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」として認められた研究事業であり、研究期間は、1998年度～2002年度（5年間）。ただし、2002年度においては、文部科学省の「未来開拓学術研究費補助金」事業として推進する。

情報社会における情報と知的財産の創造と流通に関する著作権取引市場である「コピーマート」について、法モデルを策定する。

問題別にワーキンググループを編成し、研究集会、国際シンポジウム、外国の研究グループとの共同研究等を予定する。

(2)「器官形成に関わるゲノム情報の解読」
 研究代表者：松原 謙一
 国際高等研究所学術参与・特別委員
 大阪大学名誉教授
 専門：分子生物学

科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」として認められた研究事業であり、研究期間は、1998年12月～2003年11月（5年間）。

高等動物の器官形成は、全面的にゲノムに組み込まれた遺伝情報の逐次的発現に基づいて進行するものと考えられる。器官形成における遺伝子発現のプロファイルを経時的に追い、複雑な調節系にある遺伝子発現の継起事象を遺伝子単位で記載し、器官形成における発現制御のネットワークを明らかにすることを目的とする。

(3)「物質科学とシステムデザイン」
 研究代表者：金森順次郎
 国際高等研究所所長
 専門：物性物理学

日本学術振興会研究開発専門委員会「物質科学とシステムデザイン 次世代エレクトロニクスの構築に向けて」の調査研究に平行して、実際的なアプローチの模索を行う研究事業で、研究期間は、2001年11月～2004年3月（3年間）。

我が国の存立にかかわる次世代エレクトロニクスを視野に、「物質科学」と「システムデザイン／インテグレーションの科学と技術」について、今後のあるべき科学・技術の研究戦略を討議し、次世代の学術研究および産業の科学と技術の新たな方向性を生み出すことを趣旨とする。

4. 共同研究

(1) 京都大学数理解析研究所との共同研究
 総括責任者：高橋陽一郎
 国際高等研究所企画委員
 京都大学数理解析研究所教授
 専門：数理解析学

1997年度から開始された京都大学数理解析研究所との共同研究は、1999年度を以て当初予定した3年間の共同研究期間を終了したが、2000年度か

らはこれまでの実績を踏まえて引き続き共同研究を推進している。
 2002年度においても引き続き実施する。

(2) 奈良女子大学との共同研究
 「歴史的概念としての『日本』の形成と変容」
 研究代表者：広瀬 和雄
 奈良女子大学大学院人間文化研究科教授
 専門：考古学

奈良女子大学との間で「歴史的概念としての『日本』の形成と変容 意識としての古代の時間・空間およびその場におけるイデオロギーと儀礼との相関関係を軸として」をテーマとする共同研究を2000年度から開始した。研究期間は、2000年度～2002年度（3年間）。

(3) 宇宙開発事業団との共同研究
 「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題
 人文社会科学からのアプローチ」
 総括責任者：中川 久定
 国際高等研究所副所長
 研究代表者：木下 富雄
 甲子園大学学長
 専門：社会心理学

本格的な宇宙時代の到来を踏まえ、今後の宇宙開発の理念を創出、宇宙環境の利用に伴い発生する諸課題への対応、人文社会科学的視点に立った宇宙環境の学術的利用の可能性など、今後進むべき方向と課題を明らかにすることを目的とし、首記テーマの基礎的研究を、2002年度から同事業団との共同研究として推進する。

5. 学術フォーラム・その他の研究集会
 (1) ハンガリーとの共同セミナー
 「先端科学技術における物理学
 光科学の最前線」
 大阪大学核物理研究センター及び（財）高輝度光科学研究センターとの共催により5月13日～17日の日程にて開催する。
 また、5月16日及び17日の両日、「最先端の原子・分子核分光が拓く物性最前線」をテーマとする研究集会及び公開光科学フォーラム「最先端の

光ビームで見るミクロの世界」を開催する。

情報出版事業の充実。 研究成果の公表

1. インターネット出版

本研究所の知的資源である研究成果を内外に広く発信して学術の発展に資するため、インターネット等の情報メディアを活用した情報出版事業の充実に努め、高度情報化を背景とする情報出版活動の電子化を図る試みとしてインターネット出版を推進する。

インターネット出版では、1) オンライン版、2) 書籍版に加え、3) CD版及び4) 利用者編集版（利用者が選定したものをオンディマンド出版方式で出版する形態）での出版を計画し推進する。

これらは、新たな著作権市場「コピーマート」を応用したビジネスモデルであり、特別研究「情報市場における近未来の法モデル」において情報社会の法的基盤となるべき法モデルの策定を目指す研究の成果を活用するものである。

2. 研究成果の公表

2001年度以前に終了した一部の研究事業並びに2002年度において研究事業が終了する課題研究(A)及び課題研究(B)の研究成果を2002年度内に取りまとめるとともに、学術出版や研究成果を一般に公開する講演会の開催等、研究成果の公表に努める。

専門的人材育成事業 『スペシャリスト・コース』 の新規展開

本研究所の研究事業に関連する学術的新規分野を選び、当該分野において中核的な役割を担う専門的な人材育成事業を今後における重要な柱として位置付け、人文科学、社会科学及び自然科学の各分野並びにこれらの分野の複合領域を対象とし

て、「スペシャリスト・コース」を設定し、大学、産業界、行政機関等との連携協力も視野に入れて新規展開を図る。

1. 情報生物学適塾

集中トレーニング・コース

世界的に競合する新規分野「情報生物学」を開拓する人材の育成を早急に図り、学術的・社会的要請に応えることを目的として、2000年度・2001年度の事業として「適塾」の精神にのっとった情報生物学集中トレーニングコースを開設した。

2002年度においては、前回の実績を踏まえ運営方法やカリキュラムを更に充実し実施した。

2. 新規分野

上記情報生物学以外の新規分野として、下記の諸分野を構想する。

- (1)「コンピュータマテリアルデザイン」
- (2)「知的財産権」
- (3)「半導体の共通設計技術資産：IP (intellectual property)」
- (4)「宇宙開発と人文社会科学」

『学者村』の活性化

（研究者の招へい、若手研究者の育成）

本研究所の恵まれた研究環境を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を対象とした「招へい学者 (IIAS Fellow)」事業をより充実する。

また、優秀な若手研究者の研究を奨励するために設けた「特別研究員」制度等を活用し、若手研究者の育成を図る。従来の制度にとらわれず、本研究所のプロジェクトに関連して短期間に特別研究員を委嘱する等、柔軟な制度運営を図る。

1. 卓越した研究者の招へい

（招へい学者「IIAS Fellow」及び
招へい研究者「IIAS Researcher」制度）

本研究所の優れた研究環境を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者 (IIAS Fellow)」として招へいする。2002年度には10名程度の国内外の学者を招へいす

る。

招へい学者は、研究会やシンポジウムの開催、国内外の研究者との研究交流、一般市民を対象とする公開講演会の開催などの研究活動を行う。

2002年度における招へい学者予定者

(順不同・敬称略)

(1) 国内招へい学者

- 1) 伊東 光晴・京都大学名誉教授(経済学)
- 2) 新庄 輝也・京都大学名誉教授(無機素材化学)
- 3) 柳田 孝司・大阪大学名誉教授(物性物理学)
- 4) 鈴木 正裕・甲南大学法学部教授、元神戸大学学長(民事訴訟法)
- 5) 徳丸 克己・筑波大学名誉教授(有機物理化学)
- 6) 原田 宏・筑波大学名誉教授(植物分子生物学)
- 7) 廣田 栄治・総合研究大学院大学前学長(構造化学)
- 8) 政池 明・奈良産業大学教授、京都大学名誉教授(素粒子物理学)

(2) 国外招へい学者

- 1) Dusko Stanislav Ehrlich・フランス国立農学研究所部長(分子生物学)
- 2) John Dowling・米国ハーバード大学教授(分子・細胞生物学、脳科学)
- 3) Serguei I. Karp・ロシア科学アカデミー付属世界史研究所教授(フランス・ロシア関係史)
- 4) Knut W. Noerr・ドイツテュービンゲン大学教授(法律学)

2. 若手者研究者への研究助成

(「特別研究員」及び「研究員」制度)

優秀な若手研究者の研究を奨励するために設けられた「特別研究員」制度、及び特別研究等の研究事業に若手研究者を参加させ、研究の進展を促進するための「研究員」制度等を通して若手研究者の育成を図る。

2002年度における特別研究員(順不同・敬称略)

- 1) 林 健太・大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程単位取得退学(2001年度から継続)
- 2) 赤坂 立也・京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了・理学博士(2001年度から継続)
- 3) 宮脇 正晴・大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程単位取得退学(2002年度新規)

2002年度における研究員(敬称略)

- 1) 山名 美加・博士(法学・大阪大学)
(2002年度新規)

一般公開事業

1. 一般公開講演会

本研究所の活動内容に対する理解を得るために、また学術研究に関わる最前線の話題を広く一般社会に提供することを目的として、IIAS Fellow 公開講演会などの一般の方々を対象とした公開講演会を企画・開催する。

2. 「けいはんな・茶会と文化学術講演会」

財団法人創設15周年を記念して1999年度に開催した「けいはんな秋の茶会と講演会」、2000年度に開催した茶会の実績を踏まえ、文化活動の重要性に鑑み、2001年度から春の定例行事と位置付けた公開事業として、「茶会及び文化学術講演会」を企画・開催することとした。2002年度においても継続して実施する。

3. 『親子』サイエンス・スクール

サイエンス・スクールは、21世紀を担う子供達を対象に、著名な研究者との触れ合いを通じて創造性と科学への夢を導き出すことを目的として、秋の定例行事と位置付け、1994年度から始めたセミナー事業である。

1997年度以降については、株式会社京都銀行の支援を受ける冠事業として開催し、2002年度においては、京都府の協力を得て実施する。

広報活動

1. 広報誌「こうとうけん」及び「IIAS NEWS LETTER」の発行

2. インターネットホームページの充実

本研究所の概要、研究テーマの企画・活動内容などの情報発信、研究成果の公表の場として、インターネット・ホームページの一層の充実を図る。

< <http://www.iias.or.jp/> >

課題研究(A) 研究メンバー

(*印は研究代表者、順不同・敬称略、所属・肩書は2002年4月1日現在のもの)

(1) 種属維持と個体維持のあつれきと提携

- * 岡田 益吉 国際高等研究所副所長
- 阿形 清和 岡山大学理学部教授
- 石川 冬木 東京工業大学大学院生命理工学研究科教授
- 岡田 清孝 京都大学大学院理学研究科教授
- 岡田 節人 京都大学名誉教授
- 櫻川 真樹 理研つくば研究所神戸分室
発生再生科学総合研究センター研究员
- 川村 和夫 高知大学理学部教授
- 小林 悟 岡崎国立共同研究機構
統合バイオサイエンスセンター教授
- 長濱 嘉孝 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所教授
- 星 元紀 慶應義塾大学大学院理工学研究科教授
- 松居 靖久 大阪府立母子保健総合医療センター研究所
部長
- 三井恵津子 (財)武田計測先端知財団事業部
- 矢原 徹一 九州大学大学院理学研究院教授

(2) 「一つの世界」の成立とその条件

- 鎖国時代の日本とヨーロッパ
- * 中川 久定 国際高等研究所副所長
- 石川 文康 東北学院大学教養学部教授
- 井田 清子 駒沢大学非常勤講師
- 井田 進也 大妻女子大学比較文化学部教授
- 彌永 信美 大谷大学非常勤講師
- ロバート・キャンベル
東京大学大学院総合文化研究科助教授
- 桑瀬章二郎 志同社女子大学現代社会学部講師
- 小関 武史 一橋大学大学院法学研究科講師
- 中野 三敏 福岡大学人文学部教授
- 堀池 信夫 筑波大学大学院哲学・思想研究科教授
- 松田 清 京都大学総合人間学部教授
- エンゲルベルト・ヨリッセン 京都大学総合人間学部助教授

(3) 多様性の起源と維持のメカニズム

- 多様性の新しい理解を目指して
- * 吉田 善章 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

- 合原 一幸 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
- 伊藤 伸泰 東京大学大学院工学系研究科助教授
- 北原 和夫 国際基督教大学教養学部教授
- 鳥海 光弘 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
- <ワークショップメンバー>
- 青木 圭子 科学技術振興事業団
横山液晶界面プロジェクト研究员
- 石村 直之 一橋大学経済学部助教授
- 神谷 和也 東京大学大学院経済学研究科助教授
- 郷原 一寿 北海道大学大学院工学研究科助教授
- 田中 久陽 電気通信大学電気通信学部助教授
- 西森 拓 大阪府立大学大学院工学研究科助教授
- 似田貝香門 東京大学大学院人文社会系研究科教授
- 村重 淳 東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授
- 山家 智之 東北大学加齢医学研究所助教授

(4) 思考の脳内メカニズムに関する 総合的検討

- * 波多野謙余夫 放送大学教授
- 板倉 昭二 京都大学大学院文学研究科助教授
- 乾 敏郎 京都大学大学院情報学研究科教授
- 入来 篤史 東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究所教授
- 梅田 聰 慶應義塾大学文学部助手
- 大津由紀雄 慶應義塾大学言語文化研究所教授
- 斎木 潤 京都大学大学院情報学研究科助教授
- 田中 茂樹 仁愛大学人間学部助教授
- 田邊 敬貴 愛媛大学医学部教授
- 銅谷 賢治 國際電気通信基礎技術研究所
人間情報科学研究所主任研究员
- 藤田 和生 京都大学大学院文学研究科教授
- 本田 学 岡崎国立共同研究機構生理学研究所助教授

課題研究(B)の研究メンバーについては、
確定次第ホームページにて公表します。

掲示板

今後の公開事業予定 2002年5月～6月

- 5月25日(土) 公開講演会「『想い』や『夢』を形に」 仲田周次(IIASフェロー/大阪大学名誉教授)
システム・デザインの発想・表現・実体化論の視点から
- 6月8日(土) けいはんな・茶会と文化学術講演会

お問い合わせ

国際高等研究所



International Institute for Advanced Studies

編集・発行 / 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

<http://www.iias.or.jp/> e-mail: www_admin@iias.or.jp